

FP7 事後評価報告書 “Commitment and Coherence – essential ingredients for success in science and innovation¹⁾”の概要

1. 概要

2015年11月に、欧州の前枠組みプログラムであるFP7の事後評価報告書が公表された。これは、FP7策定時の「プログラム終了2年後に欧州委員会は独立した外部評価委員会によるプログラム評価を行う」という取り決めに従い、12名の専門家グループ²⁾により作成されたものである。報告書はFP7の概要を示すとともに、その成果として10項目、今後の課題として5項目を示している。また、FP7の実施、FP7への参加状況、FP7のインパクト等に関する有用な情報（データおよび分析）を提供している。本速報においては、報告書で示されたFP7の概要、個別成果および今後の課題について簡単にまとめる。

2. FP7の概要

- ・ 欧州として取り組む事により付加価値の付く研究・イノベーションを、長期的視点から助成。
- ・ 550億ユーロの予算は、欧州全体の研究開発費の3%（競争的資金としては25%）に相当。
- ・ 7年間で約25,000プロジェクトに共同助成、29,000の機関が参加。内21,000は初めての参加者であり多様性が向上した一方、参加数の上位500機関で助成額の6割を占める等、集中の傾向。
- ・ EUの他プログラムや加盟各国レベルとの足並み揃えが重視され、定期的なプログラム評価を実施。
- ・ EUが支出した1ユーロに対し、11ユーロの直接的・間接的な経済効果があったと試算。
- ・ FP7により130万人・年の直接雇用創出。また、25年に渡る400万人・年の雇用創出の見込み。

3. FP7の成果

(1) 個人・組織のレベルでの科学的なエクセレンスを促進

- ・ IDEAS³⁾プログラムが、優秀な研究者を惹きつけ、研究者の卓越性を測る指標となった。
- ・ PEOPLE⁴⁾プログラムが、欧州の博士課程教育のスタンダードを確立した。
- ・ COOPERATION⁵⁾プログラムが、国際連携を促進し、重要な社会的課題に対し英知を糾合した。
- ・ CAPACITIES⁶⁾プログラムが、中小企業、新メンバー国等における優秀な組織の参加を支援した。

(2) 欧州研究会議（ERC）を通じた IDEAS プログラムにより革新的な研究を推進

- ・ リスクの高い先端研究を支援するという姿勢が強化された。
- ・ ERC採択者が、トップレベル論文を生産し、ノーベル賞・フィールズメダルを受賞した。

(3) 戦略的に、産業界とりわけ中小企業と連携

- ・ 拡大された産学官連携の枠組み（特にJTI⁷⁾・中小企業プログラムを通じ企業の参加を促進した。

(4) 新手法による連携とオープンイノベーションの枠組みを強化

- ・ ERC、JTI、欧州イノベーション・技術機構（EIT）⁸⁾を通じた分権的なプロジェクトを実現した。

¹⁾ http://ec.europa.eu/research/evaluations/pdf/fp7_final_evaluation_expert_group_report.pdf

²⁾ EU加盟国・FP7関連国以外の唯一の評価者として、原山CSTI議員が専門家グループに参加した。

³⁾ IDEAS：FP7における基礎・先端研究支援プログラム。

⁴⁾ PEOPLE：FP7における人材育成・流動性向上プログラム。

⁵⁾ COOPERATION：FP7における共同研究プログラム。全体予算の64%が充てられたFP7の中心となるプログラム。

⁶⁾ CAPACITIES：FP7における基盤強化（インフラ整備、研究レベル向上等）プログラム。

⁷⁾ Joint Technology Initiative：特定の分野において、産業界が中心となり、欧州委員会と共同で法人格を持つ組織を作って連携を行う官民連携。自身で研究戦略を立案し、欧州委員会の資金と自前の資金を合わせて独自の公募を実施。

- ・ 経済危機に対応した取り組みをするとともに、オープンイノベーションを推進した。
- (5) 連携文化の触媒となり、また課題に対応する包括的なネットワークの構築を通じ、欧州研究圏を強化
 - ・ COOPERATION・CAPACITIES プログラムにおける平均 6 カ国が参加する国際コンソーシアムでの研究を通じ、国境・産学官の枠を超えた連携を推進した。
- (6) 研究・技術開発・イノベーションを通じ、一定の社会的課題に対処
 - ・ COOPERATION プログラムにて健康、エネルギー、輸送、安全といった課題で公募を実施した。
 - ・ CAPACITIES プログラムにて社会の中の科学というテーマのサブプログラムを推進した。
 - ・ 男女共同参画を推進した。
- (7) メンバー国レベルの研究・イノベーションシステムおよび政策の協調を促進
 - ・ 多くの加盟国の、科学上のエクセレンス向上・社会的課題対応・ファンディングの改善等に貢献した。
 - ・ ERA-NET⁹を通じ EU 加盟国・FP7 関連国の国・地域レベルのプログラムの連携・整合を推進した。
- (8) 欧州全域を通じての、研究者のモビリティを促進
 - ・ PEOPLE プログラムを通じ欧州全域にわたる開かれた労働市場の構築にむけた条件整備を推進した。
 - ・ 国をまたいだ移動を行う博士課程学生のためのフェローシップの認知度を向上させた。
- (9) 欧州の研究インフラへの投資を推進
 - ・ ESFRI¹⁰と CAPACITIES を通じた、欧州の研究インフラの一貫性ある開発・活用を進めた。
- (10) クリティカル・マスの実現
 - ・ 欧州の研究機関と連携すること／そこで研究することの魅力としての人材・経済資源を拡充した。
 - ・ 大規模プログラムを通じ、欧州の公的取り組み全体における重要度を向上させた。

4. 今後の課題

- (1) グローバルな文脈において重要な課題や機会に焦点を当てること
 - ・ 欧州が真にリーダーシップを発揮すべき領域の同定、そのための土台の戦略的な構築
 - ・ 欧州委員会による、産業界との定常的な対話手段の確保および強固なイノベーション戦略の構築、等
 - (2) 欧州における研究・イノベーションの推進手段・アジェンダの整理
 - ・ 枠組みプログラムの仕組みに関する不可視な前提の可視化・文書化
 - ・ 欧州を通じた「共通の科学技術・イノベーション政策」の可能性の模索、等
 - (3) 枠組みプログラムの鍵となる取り組みの、より効果的な統合
 - ・ プログラム間のシナジー効果の評価・加速、および重複する取り組みの排除
 - ・ Horizon 2020 の運営に関わる機関間のコーディネーションプロセスの改善、等
 - (4) 欧州の市民にとっての、より身近な科学の実現
 - ・ エビデンスが先導し科学に基づいた社会の構築に向けてステークホルダーの参加を促進
 - ・ 研究の目的・利益・推進方策の議論に、より一般市民の参加を促進、等
 - (5) 戦略的なプログラムモニタリングおよび評価の確立
 - ・ モニタリング・評価に資するデータセット（個人研究者のトレーシング情報等）の開発
 - ・ 評価の目的、基準、質問項目、報告形式の標準化、等
- 以上

⁸ European Institute of Innovation and Technology：研究・イノベーション・起業家教育に取り組むもの。

⁹ ERA-NET：メンバー国毎に独自に実施される研究開発のコーディネーションを支援する枠組み。

¹⁰ European Strategy Forum Initiatives for Research Infrastructures：一貫した戦略に基づき欧州のインフラを整備・運用する枠組み。